

久我記念館コレクション

須恵町立美術センター久我記念館は、今から21年前の昭和61年8月6日に開館しました。

この建物は、昭和54年(1979年)に久我美術研究展示館の名称で、故・久我五千男氏の個人美術館として建設されました。しかし、久我氏は昭和59年8月6日に急逝されました。その後、ご遺族のご厚意で敷地・建物・記念資料が本町に、主たる資料が福岡県立美術館に寄贈されました。

町立の美術館となってからは、作家の個展の開催や、須恵焼を中心にコレクションの充実を図ってきました。現在では、絵画を約100点、焼物を約300点収蔵しています。

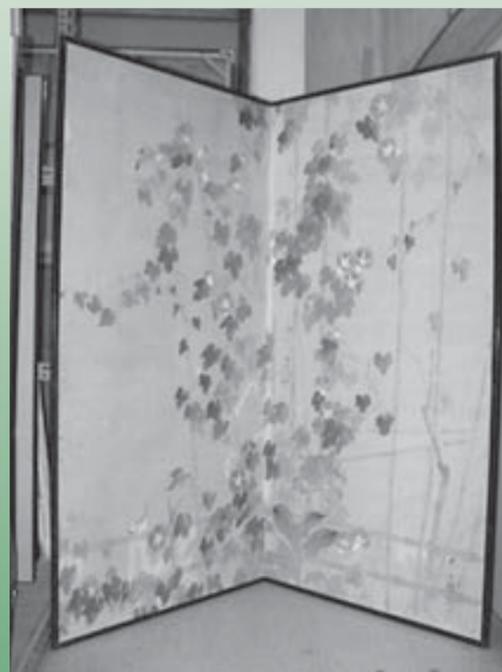
須恵焼に関しては、日本屈指のコレクションを誇ります。館では、資料のコンディションを保つために、展示の入れ替えを行いながら紹介しています。



金鑄染付酒注 (町指定文化財 個人像)



金鑄染付山水文花生 (町指定文化財 個人像)



水上泰生 「朝顔図」

企画展開催中です
尾花 成春 展
溪谷にて想うこと
6月30日(土)～8月5日(日)
(月曜休館・祝日の場合は翌日休館・入館無料)

緑を守り育てる

山王宮の楠の樹林

…クスノジュリン…



樹齢100年以上の楠が群落する山王宮

保存樹と保存樹林、今回は南米里の山王宮全体が丘陵地になっている南米里区のそのまた高台に山王宮があります。

麓から真っ直ぐに伸びた石段を、90段登りつめるとそこに社殿があります。

祭神は、日吉大社の祭神の総称である山王権現で、創立の時期は明らかではありませんが、筑前国統風土記付録(1798年)には、すでにその記載が見られます。

神社の森は天を突く楠の群落で、樹齢100年を越すといわれる32株の古木から、樹齢40年以上の「壮木」まで85株が数えられ、そのすべてが保存樹林に指定されています。

また、この樹林はアオバズクが飛来することでも知られています。フクロウ科の鳥でやや小型のアオバズクは、青葉のころ、中国南部やフィリピンから日本にやってくる渡り鳥で、楠のほこらなどに巣を作って子育てをします。

神社の周辺には、びっしりと住宅が建て込んでいますが、貴重な樹林は、地元や町民の熱意で、未永く保存してもらいたいと思います。(須恵町自然教育林推進協議会)

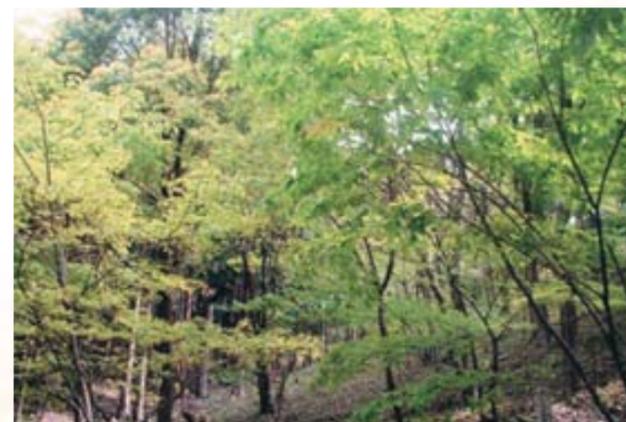


成長したケヤキ

町民のみなさんの中には、若水林道のそばなどにケヤキを植えた植樹デーのことを記憶されている方も多いかと思えます。

今から13年前の平成6年3月に、第1回町民植樹デーの催しがありました。

百数十人の町民が参加し、男性組は若水林道の東側入り口に、親子連れなどは皿山公園の一角に、合わせて600本のケヤキの苗を植えました。



第1回植樹地 若水林道東側

苗は3年ものでしたが、ケヤキは年々成長し、今では高さ数メートルの瑞々しい青年樹に育ちました。これらのケヤキは、降った雨を蓄える水資源涵養の役割を十分に果たすようになっていきます。